

「考え、議論する道徳」への質的な転換を図る道徳の授業の在り方(2年次)

島根県教育センター 企画・研修スタッフ 共同研究

【 要 旨 】

本研究は、道徳科の授業づくりにおける教師の困難さを軽減する方法を探るために、①「考え、議論する道徳」の授業を構想するための「道徳授業づくりシート」を作成すること、②「道徳授業づくりシート」の有用性を検討することを目的として行った。研究協力校の松江市立生馬小学校と松江市立第一中学校において、「道徳授業づくりシート」を活用した授業実践を実施した。本研究から「道徳授業づくりシート」を活用することで、①指導の明確な意図を思考することを促し、「本時のねらい」が明確になること、②授業者の思考プロセスを共有することができること、③他学級の授業者と指導方法の確認ができることの三つの有用性が見えてきた。

【キーワード：道徳 質的な転換 授業づくりシート】

I. 問題の所在

平成 28 年に中央教育審議会から示された「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)」には、「小学校で平成 30 年度から、中学校で 31 年度から全面実施されることに向けて、全国の一つ一つの学校において、『考え、議論する道徳』への質的転換が、着実に進むようにすることが必要である。」と記載されている¹⁾。

このことを受け、筆者らは研究の 1 年次(平成 30 年度)において、次の研究を行った。

① 島根県内の小・中学校教諭 244 名(フォローアップ研修 2 年目、6 年目研修、11 年目研修の受講者)を対象に、道徳の授業づくりにおいて困っている点、課題等について調査した。

② 調査結果を分析し、「考え、議論する道徳」への質的変換を図る上で、県内の小・中学校教員が困難に感じている点を明らかにした。

③ 調査結果を踏まえた授業づくりの方法(「道徳授業づくりシート」の活用)を提案した。

1 年次の研究から次の点が明らかになった。一つ目は、県内の小学校と中学校ともに道徳科の授業構想や指導方法について困難を抱えている教師が多く、その困難さは教師の経験年数によって大きな差が認められなかったこと。二つ目は、教師は経験年数に関わらず「指導過程の構想」、「教材分析」、「発問」に困難を感じていることである。道徳科が全面実施され、小学校及び中学校において年間 35 時間の授業実践が行われている現在において、道徳科の授業

に係る教師の困難さを軽減することが喫緊の課題であるといえる。

そこで、1年次に考案した「道徳授業づくりシート」に「考え、議論する道徳」の視点から改訂を加える。そして、改訂した「道徳授業づくりシート」に基づいて授業を構想すれば、道徳科の授業づくりにおける教師の困難さを軽減できるのではないかと考えた。これが、2年次の研究を進めた問題の所在である。

なお、本研究において「考え、議論する道徳」とは、「答えが一つではない道徳的な課題を一人一人の子どもが自分自身の問題と捉え、『あなたならどうするか』を真正面から問い、自分自身のこととして、多面的・多角的に考え、自分とは異なる意見と向かい合い議論し、自己（人間として）の生き方についての考えを深めること」と捉えている²⁾。

II. 研究の目的

道徳科の授業づくりにおける教師の困難さを軽減するために、2年次の研究においては次の2点を目的とした。

- 1 「考え、議論する道徳」の授業を構想するための「道徳授業づくりシート」を作成する。
- 2 改訂した「道徳授業づくりシート」を研究協力校に使用してもらい、その有用性を見いだす。

III. 研究の方法

目的1については、研究協力校を設け、「道徳授業づくりシート」を実際に活用してもらう実践的な研究を行う。次の①～④をくり返し行う中で、より汎用性のある「道徳授業づくりシ

ート」を作成し、提案する。

- ① 研究協力校（松江市立生馬小学校及び松江市立第一中学校）と情報交換しながら、「道徳授業づくりシート」を活用した「考え、議論する道徳」の授業づくり（授業の構想）を進める。
- ② 研究協力校が「道徳授業づくりシート」に基づいて構想された授業を実践する。
- ③ 授業協議を通して「考え、議論する道徳」の授業の在り方について分析し、検討する。
- ④ 研究協力校と協議を進める中で、活用しやすい「道徳授業づくりシート」になるように、加筆、削除及び修正を行う。

目的2については、研究協力校である松江市立生馬小学校及び松江市立第一中学校のそれぞれ全教職員を対象にした質問紙調査を次の⑤～⑧のように実施し、「道徳授業づくりシート」の有用性を検討する。

- ⑤ 「道徳授業づくりシート」の活用前における道徳科の授業についての困難を調査する。
- ⑥ 「道徳授業づくりシート」の活用途中における道徳科の授業についての困難を調査する。
- ⑦ 「道徳授業づくりシート」の活用途中において、活用することの有用性と改善点を調査する。
- ⑧ ⑤～⑦の質問紙を回収し、それぞれの学校について分析する。

IV. 研究の計画

研究の方法に基づいて2年次の研究計画を立てた(表1)。その際、2年次は実践的な研究を進めるために研究協力校との情報交換を頻繁に行えるように計画した。松江市立生馬小学校は研究主任及び道徳教育推進教師を務める教諭、松江市立第一中学校は道徳教育推進教

師を務める教諭と連絡を取りながら研究を進めた。

なお、表1に示した内容のうち、○は研究協力校において実施したもの、●は島根県教育センターにおいて実施したもの、◎は上記以外の場所(会場)において実施したものを表している。

表1 2年次の研究計画

月	内容
4月	○小・中学校の研究協力校との打ち合わせ (生馬小:5/7、松江一中:4/18)
5月	○研究内容の説明会の実施 (生馬小:5/27、松江一中:5/20) ○「考え、議論する道徳」の授業に関する質問紙調査(1回目)の実施 ○1学期及び2学期の「授業日」及び「授業者」の決定 ●「考え、議論する道徳」の授業に関する質問紙調査(1回目)の集計
6月	○1学期の授業における「教材名」及び「授業のねらい」の決定 ○「道徳授業づくりシート」を活用した授業づくり検討会(1学期)の実施 (生馬小:6/28、松江一中:7/12)
7月	○「考え、議論をする道徳」の授業(1学期)の実施 (生馬小:7/8、松江一中:7/17) ○「考え、議論をする道徳」の授業について研究協議(1学期)の実施 (生馬小:7/8、松江一中:7/17) ●「道徳授業づくりシート」の内容の検討①
8月 ~11月	○2学期の授業における「教材名」及び「授業のねらい」の決定 ○「道徳授業づくりシート」を活用した授業づくり検討会(2学期)の実施 (生馬小:8/21、8/23、松江一中:10/3、11/14)
9月 ~11月	○「考え、議論をする道徳」の授業(2学期)の実施 (生馬小:9/9、9/19、11/22、松江一中:10/17、11/21) ○「考え、議論をする道徳」の授業について研究協議(2学期)の実施 ●「道徳授業づくりシート」の内容の検討② ○「考え、議論する道徳」の授業に関する質問紙調査(2回目)の実施 ●「考え、議論する道徳」の授業に関する質問紙調査(2回目)の集計
11月	◎「小・中学校道徳教育研修」において研究協力校の取組を紹介(実践発表) (隠岐会場:11/26、松江・浜田会場:11/28、出雲・益田会場:11/29)
12月 ~3月	●質問紙調査の分析結果に基づいた「道徳授業づくりシート」の検討④ ●「道徳授業づくりシート(令和2年3月版)」の作成 ●「道徳授業づくりシート」の活用マニュアル(リーフレット)の作成 ●「道徳授業づくりシート(令和2年3月版)」をホームページに掲載 ●研究のまとめ

V 研究の内容

1 松江市立生馬小学校における実践

(1) 研究内容の説明会の実施

令和元年5月27日に松江市立生馬小学校において、次の二つの目的で研究内容の説明会を行った。一つ目は研究の内容を松江市立生馬小学校の教職員に理解してもらうこと、二つ目は1年次の研究において作成した「道徳授業づくりシート」の使い方を理解してもらうことである。①研究内容の概要、②「道徳授業づくりシート」の使い方、③授業づくりについての質疑応答という内容を40分で行った。

①研究内容の概要では、『『考え、議論する道徳』への質的な変換を図る道徳の授業の在り方』という研究主題を掲げて研究に取り組んでいること、「考え、議論する道徳」の授業を構

想するための「道徳授業づくりシート」を作成することを目的としていることを説明した。

②「道徳授業づくりシート」の使い方においては、まず道徳科の目標を確認した。次に、「教師が道徳科のねらい（道徳的価値）を踏まえ、道徳科の授業において児童にどのようなことを考えてほしいのか、どのようなことに気付いてほしいのかを明確にすること」が道徳科の目標を達成させるために大切にすべきであることを伝えた。そして、『わたしたちの道徳小学校3・4年』に掲載されている教材「雨のバス停留所で」を基にして授業構想の説明を行った。その際は、実際に「道徳授業づくりシート」を用いて具体的な記入例を示した。そのときに使用した「道徳授業づくりシート」は図1の通りである。

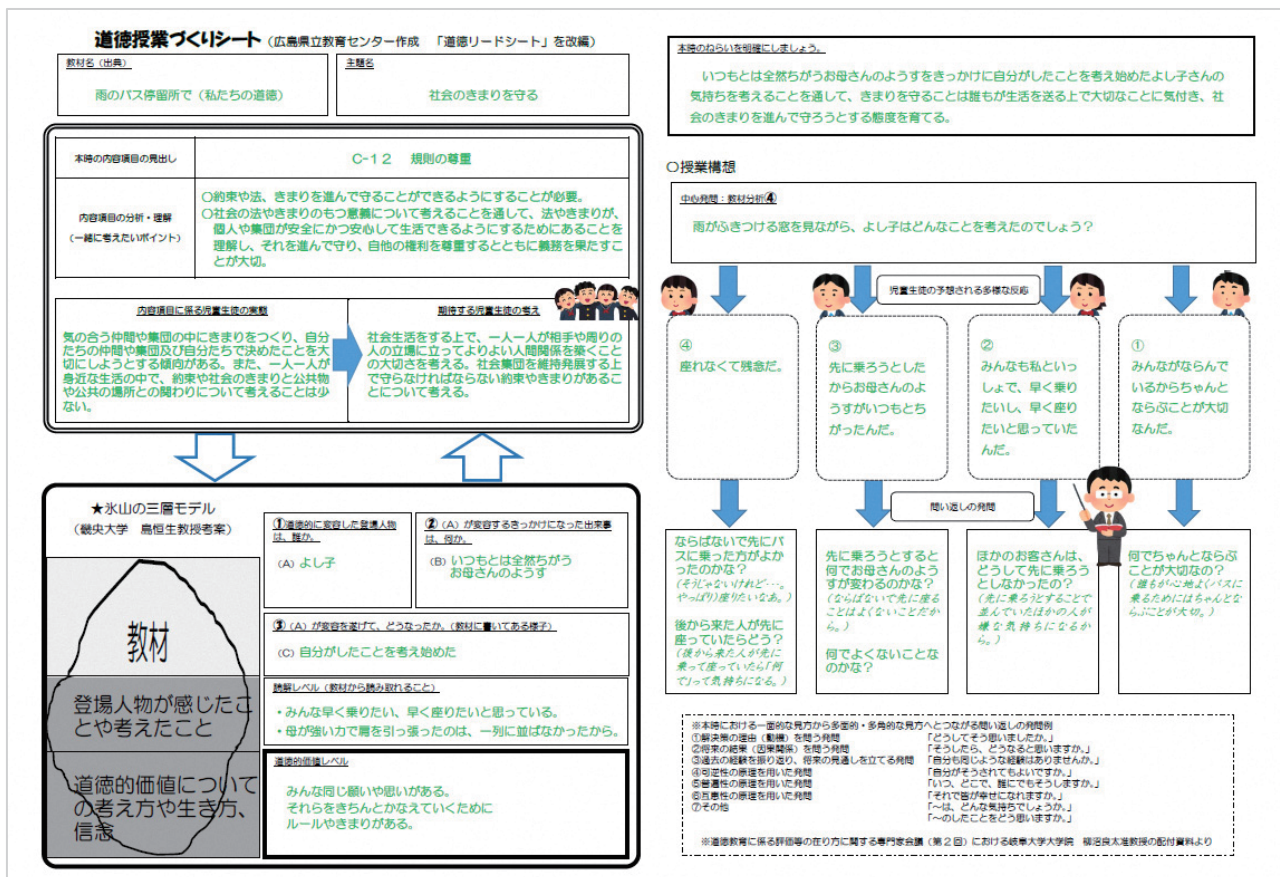


図1 研究内容の説明会で使用した「道徳授業づくりシート」

(2)「考え、議論する道徳」の授業に関する質問紙調査の実施

松江市立生馬小学校の道徳科の授業づくりに係る実態を調査する目的で2回の質問紙調査を実施した。1回目は令和元年5月27日の研究内容の説明会前、2回目は令和元年10月30日である。

1回目は、「道徳授業づくりシート」の使い方を説明する研究内容の説明会の前（「道徳授業づくりシート」の活用前）に「考え、議論する道徳」に係る質問紙を配付し、生馬小学校の全教職員（12名）に記入を依頼した。質問紙は、研究内容の説明会后すぐに回収している。質問紙の質問項目は、以下の通りである。

- 1 あなたが現在勤務する学校種をお答えください。
- 2 あなたの教職経験年数をお答えください。（講師経験年数を含む）
- 3 あなたは担任をしていますか。
- 4 あなたは今年度、道徳科を何時間担当する予定ですか。
- 5 道徳科の年間指導計画通り授業を行っていますか。
（行っていない方のみ、その理由をお答えください。）
- 6 道徳科の授業の構想について困難を感じていますか。授業をもっていない方は、過去の経験についてお答えください。
（感じている方のみ、その具体的内容を三つ以内でお答えください。）
- 7 道徳科の指導方法について困難を感じていますか。授業をもっていない方は、過去の経験についてお答えください。
（感じている方のみ、その具体的内容を三つ以内でお答えください。）

- 8 道徳科における評価について困難を感じていますか。
（感じている方のみ、その具体的内容を三つ以内でお答えください。）

上記の質問項目は、1年次の研究において島根県内の小・中学校教諭のフォローアップ研修2年目、6年目研修、11年目研修の受講者を対象に実施した質問紙の質問項目とほぼ同様である。しかし、新たに加えた質問項目もある。新たに加えた質問項目は、「4 あなたは今年度、道徳科を何時間担当する予定ですか。」である。この質問項目を加えた理由は、道徳科の担当時間数に応じた生馬小学校の教職員の実態を把握するためである。

2回目は、「道徳授業づくりシート」を活用した授業実践を行っている途中に実施した。1回目と同様に、「考え、議論する道徳」に係る質問紙を配布し、生馬小学校の全教職員（12名）に記入を依頼した。2回目の質問紙においては、「道徳授業づくりシート」についての感想及び意見、改善点等を把握するために、上記の1～8の質問項目に、次の9～12の質問項目を加えて質問をした。

- 9 「道徳授業づくりシート」を使用することで、道徳科の授業構想がしやすくなりましたか。
- 10 これから「道徳授業づくりシート」を継続して使おうと思いますか。
- 11 「道徳授業づくりシート」を使用されて「よかった点」を教えてください。また、その理由を教えてください。
- 12 「道徳授業づくりシート」をさらに使いやすくするためには、どのように改善すればよいと思いますか。また、その理由を教えてください。

なお、1回目と2回目に実施したアンケートの集計結果は、VI-1-(1)に記載している。

(3) 道徳に係る授業研究

①小学校第1学年

i)「道徳授業づくりシート」を活用した授業づくり検討会

【期 日】令和元年6月28日(金)

【内 容】

○道徳授業づくりシートの作成手順に沿って授業構想の説明が行われた。学校が取り組む授業の「テーマ」や、授業のまとめやめざす子どもの姿を書く場所があるとよいとの指摘があり、氷山の三層モデルや問い返しの例を裏面にはどうかとの意見も出た。

○中心発問「けんじくんに『やめなさいよ。ひとのくつをなげるなんて。』といったとき、『わたし』はどんなきもちだったでしょう。」について、「やめなさいよ。」と言う前の気持ちに焦点を当てるか、言った後の気持ちがよいかについて意見が交わされた。正しいことしなければならぬという気持ちだけでなく、けんじに対する恐れ、それに打ち克とうとする勇気を丁寧に引き出すことが大切であり、そのためには、言った後に焦点を当てたがよいとの意見が多かった。

○補助発問「『わたし』は深呼吸をして、けんじくんになんといいましたでしょう。」を問い、数人から意見を聞く。正しいことを勇気を出して言うという意見を引き出し、他の子どももそれらに触れ、自分のこととして考え実践しようとする心情を育てることになるという意見が出た。

○役割演技を入れることで、様々な考え(具体的な言い方、優しく伝えたがよいという思い

など)にも触れることができるのではないかという意見も出た。

ii) 研究授業

【期 日】令和元年7月8日(月)

【教材名】「やめなさいよ(光村図書出版)」

【主題名】ただしいことはすすんで

(A 善悪の判断、自律、自由と責任)

【ねらい】

○勇気を出してけんじくんに注意した「わたし」の気持ちや言った行動を考えることを通して、良いことと悪いことを判断し、正しいと思ったことを勇気をもって行おうとする心情を育てる。

【テーマ】

○ただしいとおもったことをすると、どんな気持ちになるでしょう。

(導入で、「友だちがよくないことをしているのを見たとき、どうしましたか。」と問いかけ、これまでの自分の経験を思い起こさせてテーマにつなげた。)

【中心発問】

○けんじくんに「やめなさいよ。ひとのくつをなげるなんて。」といったとき、「わたし」はどんなきもちだったでしょう。

【児童の反応(◎)と教師の問い返し(→)】

◎言ってよかった。

◎すっきりした。

◎こわい言い方をしたかな。

◎言わない方がよかったかな。

→言わなかったらどうなるかな?

【振り返りの問い(○)と児童の反応(◎)】

○今日の授業でどんなことを思いましたか。

◎人がよくないことをしていたら、やさしい言い方でやめなさいよと言う。

- ◎人のくつをなげたりしない。
- ◎悪いことをしない。



図2 授業後の板書

iii) 研究協議

【授業者のコメント】

- 子どもたちは緊張しており、発表する子が限られていた。
- ハンドサインや話し合い等を頑張っており、しっかり考えることができた。
- テーマの提示がわかりにくかった。
- 中心発問について、もっと子ども同士で話し合うことが必要であった。

【協議の参加者のコメント「よかった点」】

- 子どもの意見をくみ取って、他の子どもに伝えていた。
- ハンドサインが有効であった。
- イラストや図、板書によって流れが分かりやすかった。
- 子どもたちの態度や意欲に対して「頑張っているね」等適切な声かけがあり、児童が授業に向かうように様々な支援がなされていた。
- 子どもたちは自分のこととして捉えていた。

【協議の参加者のコメント（改善点）】

- 1年生9月という発達段階では、「わたし」（＝第三者）の気持ちについてこられない子どもがいたのではないかと。

○導入の問いとテーマとのつながりが見えなかった。

○テーマを、「よくないことをしているのを見たときどうしましたか？」と変え、正しいことを言う方がよいのは分かっている、でも言うのはこわい、勇気を出して言ったものの言わない方がよかったかもしれないと悩んだところで、「言わなかったらどうだったかな。」と反対の行動について問い返し、言ったら気持ちがよいという流れを作ってはどうか。

○振り返りで、「言うにはどうしたらよいか。」について考えさせてはどうか。

○「けんじくんやひとしくんのことを思って、悪いことは悪いと言えた『わたし』はすごいね。」と道徳的価値をシンプルに伝える終わり方でもよかった。

○自分との関わりで考えるという点で、自分もこうしたいという実践へのあこがれをもったり、こう言ったらよいのではないかと考えたりすることが大切である。

○「けれど、いちどしんこきゅうをして、けんじくんをみていいました。」というときの「わたし」の気持ちを考えさせることで、私は間違っていない、困っている子を見捨てる自分でいたくないということをしっかり考えさせることができる。

○発達段階に応じて、テーマや問い返し、中身を考えていくことが大切である。

○「最初にテーマを出す」ことにこだわらなくてもよい。

○「道徳授業づくりシート」は、補助発問を考えやすかった。

○「道徳授業づくりシート」の資料分析部分にテーマを記入する欄があってもよい。

②小学校第2学年

i) 「道徳授業づくりシート」を活用した授業づくり検討会

【期 日】令和元年8月21日(水)

【内 容】

- 授業者は「道徳授業づくりシート」を基に授業構想及び指導案の作成を行った。
- 「道徳授業づくりシート」の作成において氷山の三層モデルについて、道徳的価値レベルの設定をどのように記載すべきかわからなかったとの意見があった。

ii) 研究授業

【期 日】令和元年9月19日(木)

【教材名】お月さまとコロ(光村図書)

【主題名】すなおな気持ちで(A 正直、誠実)

【ねらい】

- 素直に生活しようとする実践意欲と態度を育てる。

【テーマ】

- どんな気持ちでいると友だちとなかよくできるのでしょうか。
(導入で、「あやまりたいのに、あやまれない時ってある?」と問いかけ、学級全体で共有してコロの気持ちに共感させることでテーマにつなげた。)

【中心発問】

- ギロにあやまろうと思ったときのコロは、どんな気持ちだったでしょう。

【児童の反応(◎)と教師の問い返し(→)】

※個人思考の後、ペアで意見交換した。

- 文句を言っていたコロと、あやまりたいと思っているコロはどこがちがう?

◎いやな気持ちをのこさない。

◎友だちの気持ちを考えよう。

→一番ちがうのは何?

- ◎自分がやさしくなれば、自分のこともすきになる。

【振り返りの問い(○)と児童の反応(◎)】

- どんな気持ちでいると友だちとなかよくできるかな。友だちの意見や今日勉強したことで思ったことをかきましょう。

◎ごめんなさいは大切だと思った。

◎友だちがいやな思いをすることを言うてはだめだな。

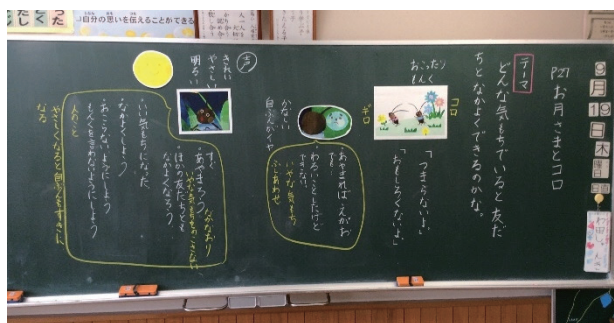


図3 授業後の板書

iii) 研究協議

【授業者のコメント】

- 自分自身に関することから、人との関わりに広げたかったが、子どもたちの意見を拾いきれなかった。
- コロの素直な気持ちから、自分の気持ちのあり様を見つめさせたかったが、子どもは謝ることに関心がなくなってしまった。

【協議の参加者のコメント「よかった点」】

- 子どもの素直さが出ており、自分の言葉で話したり書いたりできていた。
- ワークシート、板書計画、イラスト、役割演技の道具等が工夫されており、児童が授業に向かうように支援がなされていた。
- 役割演技がよかった。

【協議の参加者のコメント(改善点)】

- ペア活動については、何のために対話をす

るのか、どのように友だちと語るとよいかと、やり方を説明するなどしてはどうか。

○問い返しについては、「あやまるとなぜよいのか」を問いかけ、「そうするとゆるしてもらえるから」ではなくて、「そうするとすがすがしいから」という気持ちを共感させることが大切なのではないか。

○お月さまは、自分を見ている客観的な視点なので、「何でお月さまは、そんなふうに言ったのかな」と考えさせてみてもよかったのではないか。

③小学校第3学年

i) 「道徳授業づくりシート」を活用した授業づくり検討会

【期 日】 令和元年8月23日（金）

【内 容】

○授業者が「道徳授業づくりシート」を基に授業構想の説明し、その後指導案について協議した。

○教材において主人公の変容が表現されていないため、「道徳授業づくりシート」の「変容した登場人物、きっかけ、変容後の様子」については記載できず、授業者の判断で「変容してほしい登場人物」に書き換えて作成した。

○本時のねらいについて、「道徳授業づくりシート」には教材の内容を踏まえたねらいが記載され、指導案については道徳科としてのねらいが記載されていた。

ii) 研究授業

【期 日】 令和元年10月3日（木）

【教材名】 なおとからのしつもん（光村図書）

【主題名】 公平な態度で

（C 公正、公平、社会正義）

【ねらい】

○道徳授業づくりシート：席替えのときや休み時間に起こりがちな、人によって態度を変えるなおとの姿を通して、公平に接しようとすることの大切さを考えさせ、誰に対しても分け隔てをせず、公平に接しようとする実践意欲と態度を育てる。

○指導案：誰に対しても分け隔てをせず、公平に接しようとする実践意欲と態度を育てる。

【テーマ】

○公平な態度について考えよう。

【中心発問】

○「なんで、人によって態度を変えたらだめなの？」に答えよう。

【児童の反応（◎）と教師の問い返し（→）】

◎相手が嫌な気持ちになる。

◎人の悪口を言っていることになる。

◎悪口ではない独り言と同じ。

◎だめだと思う。

→正直だよ。

◎いい正直と悪い正直がある。

◎相手の気持ちを考えずにいうことはよくない。

【振り返りの問い】

○友だちの考えを聞いて考えが変わったことや、学んだこと、大切だなと思ったことをノートに書きましょう。

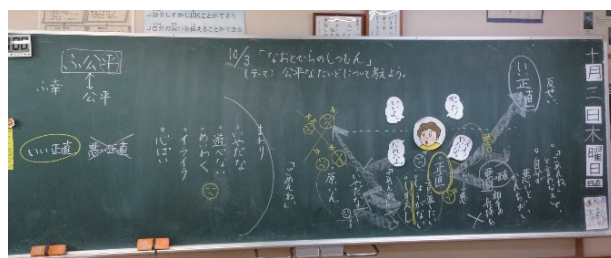


図4 授業後の板書

iii) 研究協議

【期 日】令和元年10月3日(木)

【授業者のコメント】

- 当初の指導案(「道徳授業づくりシート」)の問い返しが気になって変更した。
- 児童が「なおとは悪い人だと思う」と答えることを想定し、問い返しで「本当に?」という流れに考え直したが、実際には子どもから「悪い子」とは出てこなかった。優しい子どもの感性が表れていた。
- 子どもの実体験を重ねて進めたが、公平と不公平が子どもたちにはわからなかった。

【協議の参加者のコメント「よかった点」】

- 問い返しのやり取り多く、話が深まった。子どもの考えも深まった。
- 話し合いをしたくなる、したいという気持ちを生かし、意見を引き出す工夫があった。
- 一人が言ったことを他の児童が補う、多面的多角的な意見が出されていた。
- 思考の流れが分かる板書であった。
- 子どもの素直な言葉(実体験)が出ていた。

【協議の参加者のコメント「改善点」】

- 時間配分で児童が書く時間があればもっと内面化できたのではないかな。
- 教師の問い返しで子どもたちの気持ちが揺さぶられ、多様な意見が出ていたが、まとめの難しさが課題である。
- 最後はまだ思考が続いていた、時間が足りなかった。
- 教師の問い返しが多い(速い)ため、教師の思考についていけない児童がいた。
- グループで出た意見をどのように全体のものにするか、共有の仕方が難しい。
- 不公平や正直という言葉をどのように子どもたちに伝えるか難しい。

④小学校第4学年

i) 「道徳授業づくりシート」を活用した授業づくり検討会

【期 日】令和元年8月23日(金)

【内 容】

- 授業者が「道徳授業づくりシート」の作成手順に沿って授業構想の説明を行い、それを基に協議が行われた。
- 本時のねらいについて、「道徳授業づくりシート」には教材の内容を踏まえたねらいが記載され、指導案については道徳科としてのねらいが記載されていた。

ii) 研究授業

【期 日】令和元年11月22日(金)

【教材名】雨のバス停留所で(光村図書)

【主題名】社会のきまり(C 規則の尊重)

【ねらい】

- いつもと違うお母さんの表情を見て、自分がしたことをもう一度考え始めたよし子さんの気持ちを通して、きまりや約束を守るとは社会生活の中で大切なことだと気づき、相手や周りの人のことを考えて、進んで社会のきまりを守ろうとする態度を育てる。

【テーマ】

- きまりは何のためにあるのだろう。

【中心発問】

- よし子は自分がしたことについて、どんなことを考え始めたでしょう。

【児童の反応(◎)と教師の問い返し(→)】

- ※児童からの意見があまり出なかったため、補助的な発問(○)があった。
- お母さんはなぜ引き戻したのかな?
- ◎先の人がいるのに失礼だと思った。
- ◎周りの人に迷惑をかけた。

- 周りの人はどう思ったのかな？
- ◎先に並んでいたのに、何で先に行くのか。
- ◎言いたいけど言えない。
- どうしたらよかったかな？
- ◎ちゃんと待つ。
- 待っていたらどんな気持ちになるの？
- 「雨の日はここに並んでください」というルールがある？
- ◎ない。
- 先に乗ったらだめ？

【振り返り】

- 時間の関係もあり、授業を通じて考えが変わったことや大切だと思ったことをノートに書くことで振り返りとした。

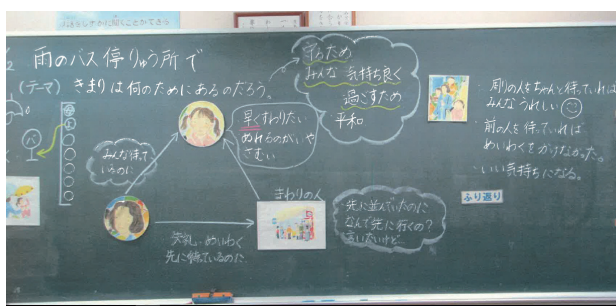


図5 授業後の板書

iii) 研究協議

【授業者のコメント】

- 中心発問までの進め方に時間をかけてしまった。
- 周りの人の考えは中心発問を考えることで答えてほしかったのであまり触れなかったが、子どもが何を考えたらよいかわからなかった感じだった。
- 中心発問では「なんでお母さんが怒っているのだろう？」その先を考えてほしかったが、難しかった。中心発問の伝え方については反省している。

【協議の参加者のコメント「よかった点」】

- 絵やイラストが活用され視覚的にわかりやすかった。
- 話や口調がゆっくりとしており場面がわかりやすい説明だった。
- ペア学習等で学び合う姿勢が見られるなど学習へ向かう姿勢がよかった。
- ハンドサインが活用されていた。
- クラスの雰囲気がよかった。
- 授業の流れが自然で、まとめに向かって考えることができた。
- 『雨の日はここに並んでください』というルールがある？』という発問は児童が考えるきっかけとなったのではないかな。

【協議の参加者のコメント「改善点」】

- （中心発問が漠然としていた感じであったことから）何にフォーカスしているかを明確にするとよい。
- 一度中心発問に戻るためにも（掲示等）あったらよかった。
- （多面的・多角的に考えるために）児童の意見に同調するのではなく「本当に？」といった子どもをゆさぶるような問い返しがあるといいのでは。
- （子どもの意見がたくさんあったことから）もっと言わせてあげてもいいのでは。
- たくさん意見が出た中から教師も一意見者としてゆさぶったらどうか。
- 児童によって到達度に差がある場合（道徳的価値の理解に差が生まれた場合）にどう支援したらよいか。

2 松江市立第一中学校における実践

(1) 研究内容の説明会の実施

令和元年5月20日に松江市立第一中学校において研究内容の説明会を行った。松江市立生馬小学校と同様に、次の二つの目的で説明会を実施した。一つ目は研究の内容を松江市立第一中学校の教職員に理解してもらうこと、二つ目は1年次の研究において作成した「道徳授業づくりシート」の使い方を理解してもらうことである。①研究内容の概要、②「授業づくりシート」の使い方、③授業づくりの演習という内容を60分で行った。

①研究内容の概要は、松江市立生馬小学校と同様の説明を行った。詳細については、V-1-(1)を参照されたい。

②「道徳授業づくりシート」の使い方において

も松江市立生馬小学校と同様に行った。まず道徳科の目標を確認し、次に道徳科の目標を達成させるために大切にすべき事項を伝えた。そして、『私たちの道徳 中学校』に掲載されている「言葉の向こうに」という教材を基にして授業構想の説明を行った。その際は、実際に「道徳授業づくりシート」を用いて具体的な記入例を示した。使用した「道徳授業づくりシート」は図6の通りである。

③授業づくりの演習では、学年部ごとに分かれ、松江市立第一中学校で使用している教科書に掲載されている教材を用いて授業づくりを行った。最初にグループごとに「道徳授業づくりシート」を使いながら40分間で授業構想を行った。次に各グループから出た中心発問等を10分間で共有した。

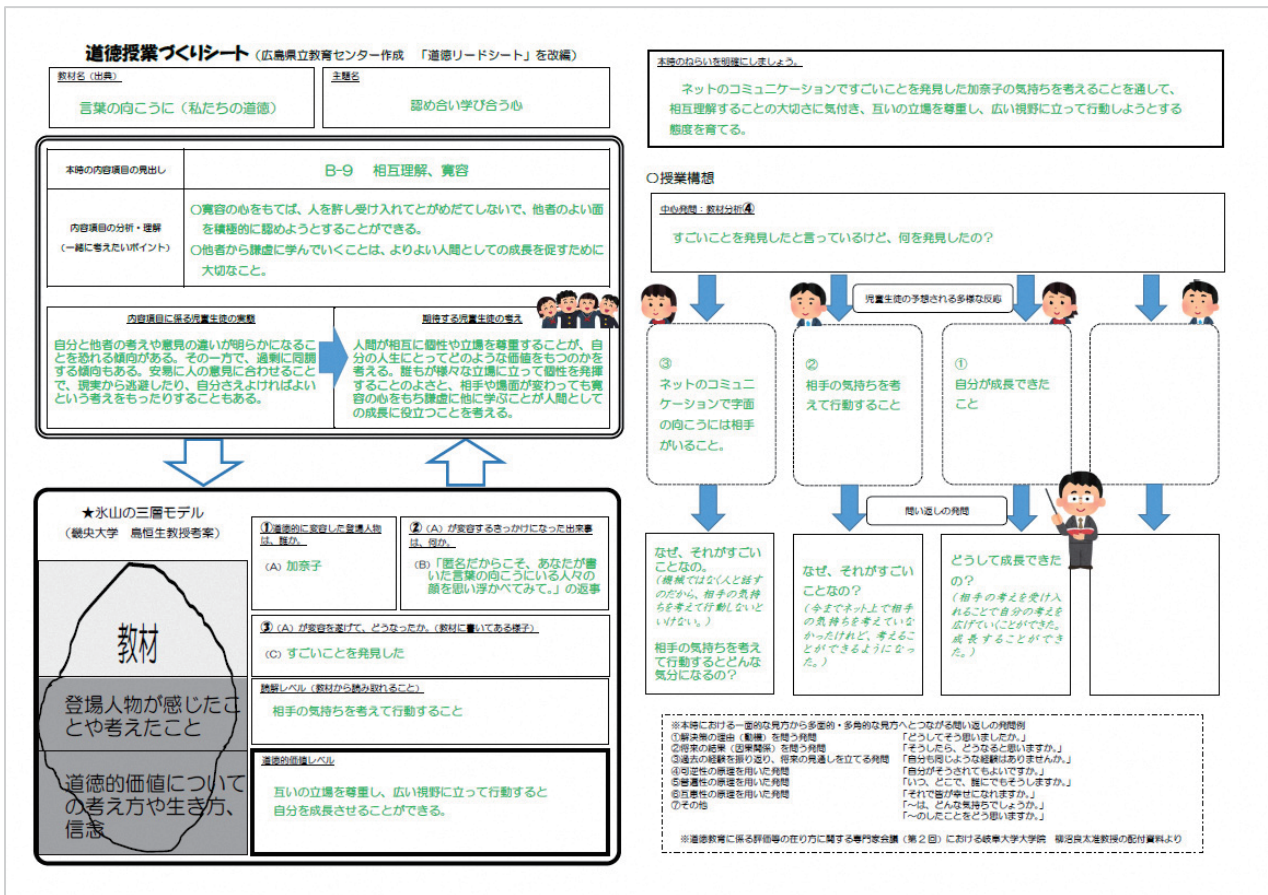


図6 研究内容の説明会で使用した「道徳授業づくりシート」

① 1年部

【教材名】いつも一緒に（学校図書）

【主題名】信頼できる友達（B-8 友情、信頼）

【活動内容】

- 授業づくりシートを、個人で記入する。
- 記入したシートをもとに、5～6人グループで「道徳的価値レベル」と「本時のねらい」について検討した（図7）。
- 全体で共有した。

【「道徳的価値レベル」についての意見】

- 友情の尊さを理解し、互いに励ましあったり、悩みを共有したりする。
- 平等で対等である信頼できる友をもつ。
- 言いたいことを言い合えるのが友であるとともに、相手の気持ちを尊重することが大事である。

【感想】

- 焦点をどこに当てるのか、道徳的価値レベルをどこにおくのが難しい。
- 道徳的価値レベルとねらいは同じものになるのではないかな。
- 中心発問を考えるまでのところに時間がかかる。



図7 グループにおける中心発問の検討

② 2年部

【教材名】茂の悩み（学校図書）

【主題名】個性や立場の尊重
（B-9 相互理解、寛容）

【活動内容】

- 「道徳授業づくりシート」の書き方を理解した後に、実際に個人で記入した。
- 3人グループで中心発問について検討した。

- 全体に中心発問を発表し合って検討した。

【感想】

- 道徳的価値レベルを考えるのに少し時間がかかった。
- 教材の内容が整理でき、自分の頭がすっきりした。
- 教材研究のポイントがわかった。
- なかなかここまで時間をかけての教材研究は難しいだろう。

③ 3年部

【教材名】僕たちがしたこと（学校図書）

【主題名】いじめを許さず、正義を実現させる
（C-11 公平、公正、社会正義）

【活動内容】

- 「道徳授業づくりシート」の使い方の講義を受け、まず個人で教材の分析・シートの作成を行った。
- 3人～5人グループで中心発問について検討した（図8）。
- 全体に中心発問を発表し合って検討した。



図8 グループにおける中心発問の検討

【協議で出た意見等】

- 道徳的に変容したのだろうか、変容をしていないのではないだろうか、といった「道徳授業づくりシート」の分析項目にそのまま当てはめることができないことへの戸惑いの意見が多くあった。
- 授業構想を考えるツールとして活用できると思った。
- 「道徳授業づくりシート」をそのまま使うのではなく、教材に合わせて柔軟に読み替えるなどの工夫が必要だと思った。

(2) 「考え、議論する道徳」の授業に関する 質問紙調査の実施

松江市立第一中学校の道徳科の授業づくりに係る実態を調査する目的で2回の質問紙調査を実施した。1回目は令和元年5月20日、2回目は令和元年11月20日である。

1回目は、研究内容の説明会の前に「考え、議論する道徳」に係る質問紙を配付し、松江市立第一中学校の全教職員(40名)に記入を依頼した。質問紙の質問項目は、松江市立生馬小学校で実施した質問紙と同様に1～8の質問項目により調査を行った。また、質問紙は、研究内容の説明会后すぐに回収している。

2回目は、「道徳授業づくりシート」を活用した授業実践を行っている途中に実施した。2回目の質問紙の質問項目についても松江市立生馬小学校と同様に9～12の質問項目を加えて実施した。

なお、1回目と2回目に実施した質問紙調査の集計結果は、VI-2-(1)に記載している。

(3) 道徳に係る授業研究

① 中学校第1学年

i) 「道徳授業づくりシート」を活用した授業づくり検討会

【期 日】 令和元年7月12日(金)

【内 容】

- 授業者は、「道徳授業づくりシート」を活用して授業構想を立て、これに基づいて指導案を作成した。
- 協議は、「道徳授業づくりシート」に記述された授業構想を基に進められた。
- 中心発問を検討する際には、予想される生徒の多様な反応について、どのように問い返すとねらいに迫ることができるのかという視点で話し合いが行われた。

ii) 研究授業

【期 日】 令和元年7月17日(水)

【教材名】 いつも一緒に(学校図書)

【主題名】 信頼できる友だち

(B-8 友情、信頼)

【ねらい】

- みゆきとの気持ちの行き違いから、真の友情について考えた真理子の気づきをとおして、心から信頼できる友だち関係とはどんなものかを考えさせる。
- 信頼できる友だち関係を構築するためには、お互いが理解し合い、成長し合う努力が必要であることに気付かせ、それを実践していこうとする意欲を高める。

【中心発問】

- 恵美が由里の悪口を言っているのを聞いて、みゆきのことを思い出した真理子は、どんなことを思っただろうか(図9)。

【生徒の反応(◎)と教師の問い返し(→)】

- ◎自分もこんなことをみゆきにしたんだなと反省した。
- ◎恵子とは親友になるはずはない。
→恵子は味方をしてくれたのに?
- ◎みゆきに悪いことをした。謝りたいけど、謝れない。
→なんで? 謝る必要はない?
- ◎みゆきが悪いと思っていたけれど、違っていて気づいた。
→違くなって思ったのはどうして?
- ◎本当はみゆきと仲直りしたいけど、人間関係のことが気になってできない。
→どういう思いでみゆきを選んだの?



図9 授業の様子(中心発問の提示)

iii) 研究協議

【期 日】 7月17日 (水)

【授業者のコメント「よかった点」】

- 導入で意思表示できるカードを用いることで全員が参加できるようになった。
- このカードによって生徒の思考を見ることができた。

【授業者のコメント「改善点」】

- 教材が生徒にとって難しかった。生徒の実態をつかんでおく必要があった。
- 本時の授業の発問は妥当だったのか。

【協議の参加者のコメント「よかった点」】

- 互いの顔が見えるような座席配置で気持ちを言葉で伝え合っていた。
- 板書がきれいで、わかりやすかった。
- 教材が長かったが、登場人物の整理をされたので、生徒は内容を理解できていた。
- 生徒の意見をひろいながら、問い返しの発問をしていた。
- グループで意見交換する場があることで、個の意見が広がっていた。

【協議の参加者のコメント「改善点」】

- 身近なできごとと重なる教材で、生徒は発言しにくかったのではないか。
- 無視をするとところに気付かせるように展開してはどうか。
- 授業において生徒がもう少し活動的になるとよいのではないか。
- 生徒の考えを付箋紙に書いて貼るなどして共有してはどうか。



図10 研究協議の様子

②中学校第2学年

i) 「道徳授業づくりシート」を活用した授業づくり検討会

【期 日】 令和元年10月3日 (木)

【内 容】

- 授業者は、指導案を作成する際には、「道徳授業づくりシート」を活用して授業構想を立てた。
- 授業者は、指導案を作成した後に、先輩教師に意見を聞き、その意見を参考にしながら検討を重ねた。
- 授業者は、同じ学年の他の3クラスにおいて指導案に基づいて授業を実施した。その際、同僚の意見を参考にし、再度「道徳授業づくりシート」を作成し、発問等の検討を重ねた。

ii) 研究授業

【期 日】 令和元年10月17日 (木)

【教材名】 千五百メートル走 (学校図書)

【主題名】 心から信頼し、高めあう
(B-8 友情、信頼)

【ねらい】

- 外見やその態度から、人となりを判断していた「私」が、イサ男と気心の知れた間柄になっていくエピソードについて考えることを通して、互いに励まし合い、高め合いながら、信頼し合って行こうとする心情を育てる。

【中心発問】

- 「イサ男は自分からクラスになじみ、みんななどとも仲の良い仲間になっていった」とあるがこうなったのはだれのおかげだろう。またその理由を考えてみよう。

【グループ発表(◎)と教師の問い返し(→)】

- ※個人で考えた後、グループ内で発表した(図11)。その後各自の考えをホワイトボードに記入し、黒板に掲示した(図12)。友達と意見を交わすことにより、他の考

えに触れることができた。友達の考えを聞く中で「なるほど。へえー、すごい。」という言葉を発表する生徒もいた。

◎イサ男のおかげ。自分から私に家族のことを話すなどして仲良くなったから。

→なぜ勇気を持って話しかけたのかな？

◎私のおかげ。私がイサ男の気持ちを聞き、相談にのったから。

→本当に「私」だけのおかげ？

◎クラスのみんなのおかげ。千五百メートル走中に応援し、終了後に祝ってくれて心許せるようになったから。

◎登場人物全員のおかげ。全員が何かしら関係している。その結果、仲間になった。



図11 グループにおける発表の様子

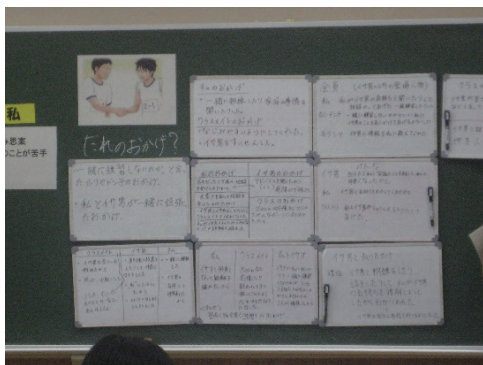


図12 掲示されたホワイトボード

iii) 研究協議

【期 日】令和元年 10月17日（木）

【授業者のコメント「よかった点」】

○授業準備段階で他クラスでの授業を実施

した結果、タイムマネジメントを意識できたこと。

○授業構想において「道徳授業づくりシート」を用いることで、授業のねらいが明確になった。

○「道徳授業づくりシート」を活用し、クラスの実態に即したねらいが設定された。

○いつも以上に活発な発言が見られたこと。

【授業者のコメント「改善点」】

○考え、議論するところまでは授業が深まらなかった。

【協議の参加者のコメント「よかった点」】

○今回の指導案や教具を用いて、他のクラスでも授業が実施できる。

○グループの安心感からたくさんの発言が見られた。

【協議の参加者のコメント「改善点」】

○一生懸命に考えたことと考えを深めることは別だと思う。その点を学んでいきたい。



図13 研究協議の様子

③中学校第3学年

i) 「道徳授業づくりシート」を活用した授業づくり検討会

【期 日】令和元年11月14日（木）

【内 容】

○授業者は、授業の経験が少ない初任者であったが、あたたかい雰囲気の中で授業についての検討が行われた。

- 協議においては、学年部の先生方のアイデアがたくさん出された。
- 授業者は、学年部の先生方のアイデアを参考にしながら授業のねらい及び授業展開をイメージしていた。
- 協議を通して学年部の先生方全員が授業のねらい及び授業展開を共有した。

ii) 研究授業

【期 日】 令和元年 11 月 21 日 (木)

【教材名】 誰を先に乗せるか？

(NHK for School)

【主題名】 思いやりの心をもつ

(B-6 思いやり・感謝)

【ねらい】

- 思いやりの心とは相手の状況や立場を推し量ることが大切であるということに気づき、思いやりを持って相手に接しようとする態度を育てる。

【中心発問】

- コジマ君はこの後どうしたらいいと思いますか。

【生徒の反応 (◎) と教師の問い返し (→)】

- ※動画を視聴するスタイルであり、生徒は最後まで興味をもって学習に取り組んでいた。また、生徒一人ひとりが自分事として考えていた。

- ◎ 5人で相談してもらえばいい。
→なんで相談してもらうのがいいの？
- ◎ コジマ君が3人を決めてしまう。
◎ コジマ君がもっと詳しく事情を聴き、再検討する。
→どうしてその必要があるの？
- ◎ コジマ君が途中まで3人を車で送り迎車のバスに乗せ、また引き返して残りの3人を運ぶ。

iii) 研究協議

【期 日】 令和元年 11 月 21 日 (木)

【授業者のコメント「よかった点」】

- 「道徳授業づくりシート」で予想される生徒の反応を考えていたので、生徒の発言にうまく対応できた。
- 授業の経験が少ない中で、道徳科の授業づくりの学びになった。

【授業者のコメント「改善点」】

- 授業でつかませたいねらいを教師が語ってしまい、深めることができなかった。

【協議の参加者のコメント「よかった点」】

- 生徒が興味・関心をもって授業に取り組むことのできる資料であり、生徒の意欲的な姿が見られた。

【協議の参加者のコメント「改善点」】

- タイムマネジメントの必要性がある。盛り込みすぎた点を改善したい。
- 生徒が「思いやり」について最後に考えまとめたことを、時間をしっかりとって発表させ共有させたかった。



図 14 授業の様子

VI 結果と考察

1 松江市立生馬小学校の実践における結果と考察

(1) 質問紙調査の結果

調査対象人数は、1回目（5月）は全ての教職員 12 人、2回目（11月）は今年度道徳科の授業を担当した 10 人とした。

①授業の構想について

「6 道徳科の授業構想について困難を感じていますか」の問いに対し、1回目は9人、2回目は8人が困難を感じていると答えた(図15、16)。

また、困難を感じている具体的な内容を5月と11月で比較すると、「教材分析」と「中心発問の設定」を選んだ人数は、いずれも2人減った。また、「授業の進め方」、「板書計画」を選んだ人数は、それぞれ2人、3人増えた(図17)。

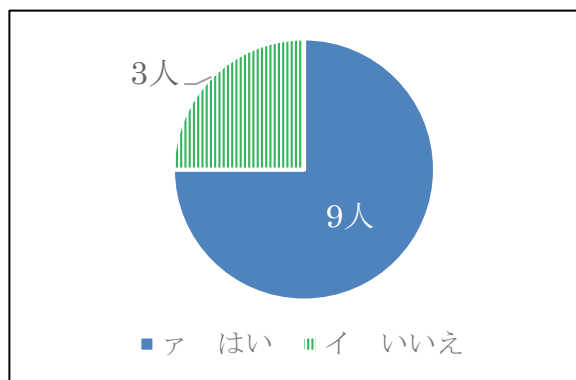


図15 構想に係る困難（1回目）

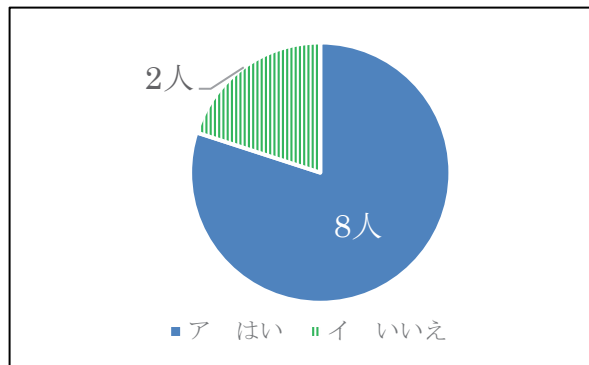


図16 構想に係る困難（2回目）

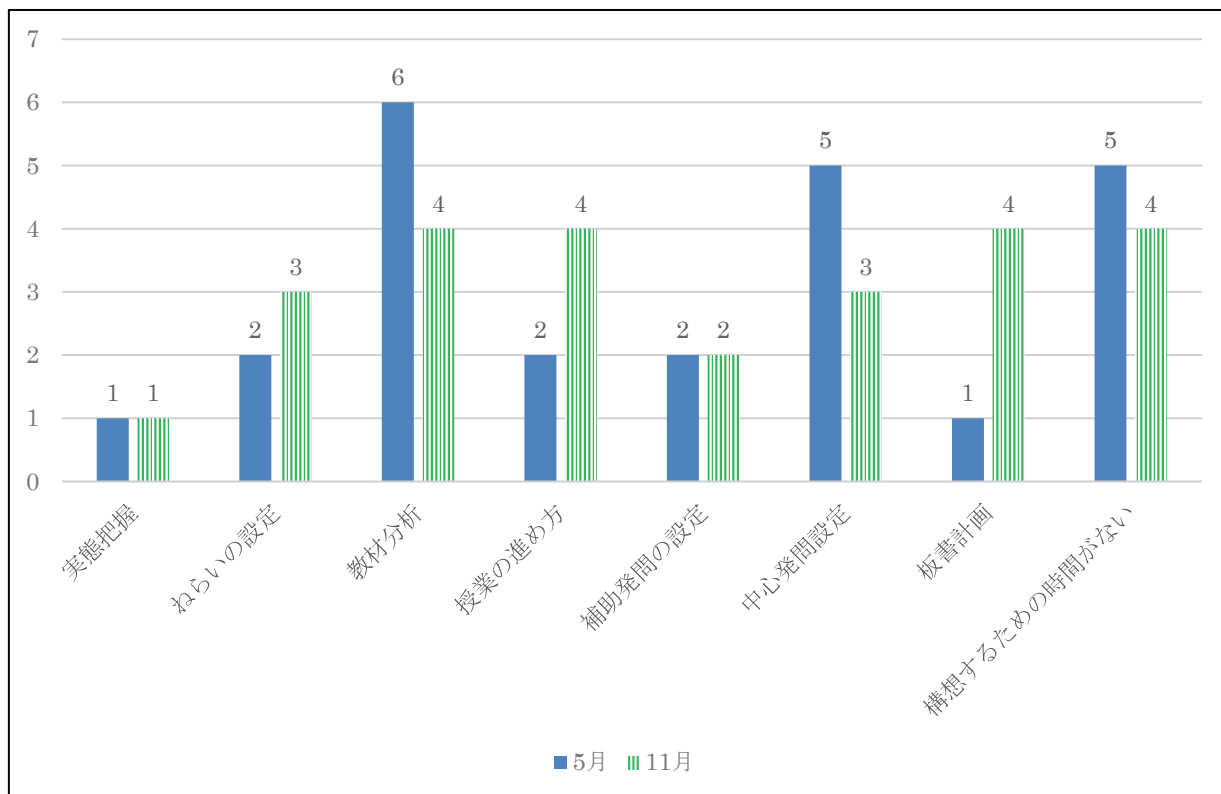


図17 構想に係る困難（詳細）比較

②指導方法について

「7 道徳科の指導方法について困難を感じていますか」の問いに対し、1回目も2回目も9人が困難を感じていると答えた(図18,19)。

また、困難を感じている具体的な内容を1回目と2回目で比較すると、「教材の提示」、「発問の仕方」、「説話の仕方」については2人減り、「板書の仕方」については2人増えた(図20)。

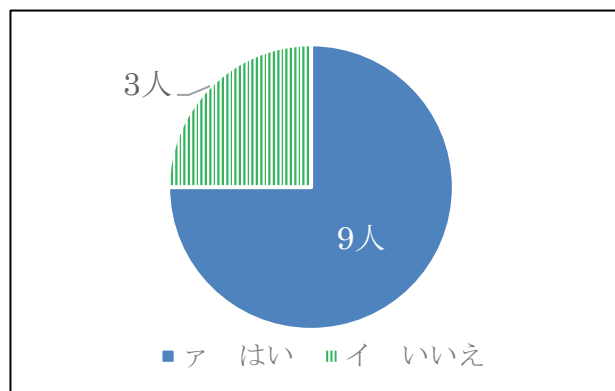


図18 指導方法に係る困難（1回目）

③「道徳授業づくりシート」と授業構想との関連

「9 『道徳授業づくりシート』を使用することで、道徳の授業構想がしやすくなりましたか」の問いに対し、肯定的な回答が6人、否定的な回答が3人だった(図21)。

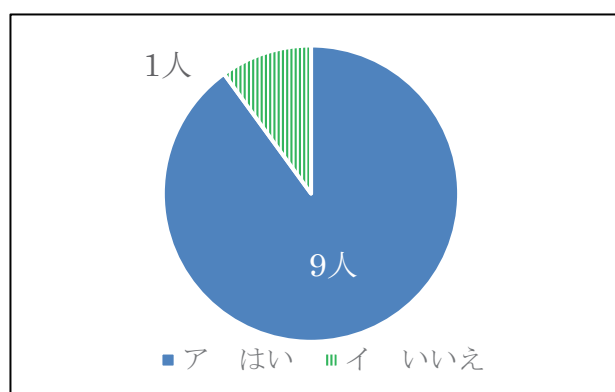


図19 指導方法に係る困難（2回目）

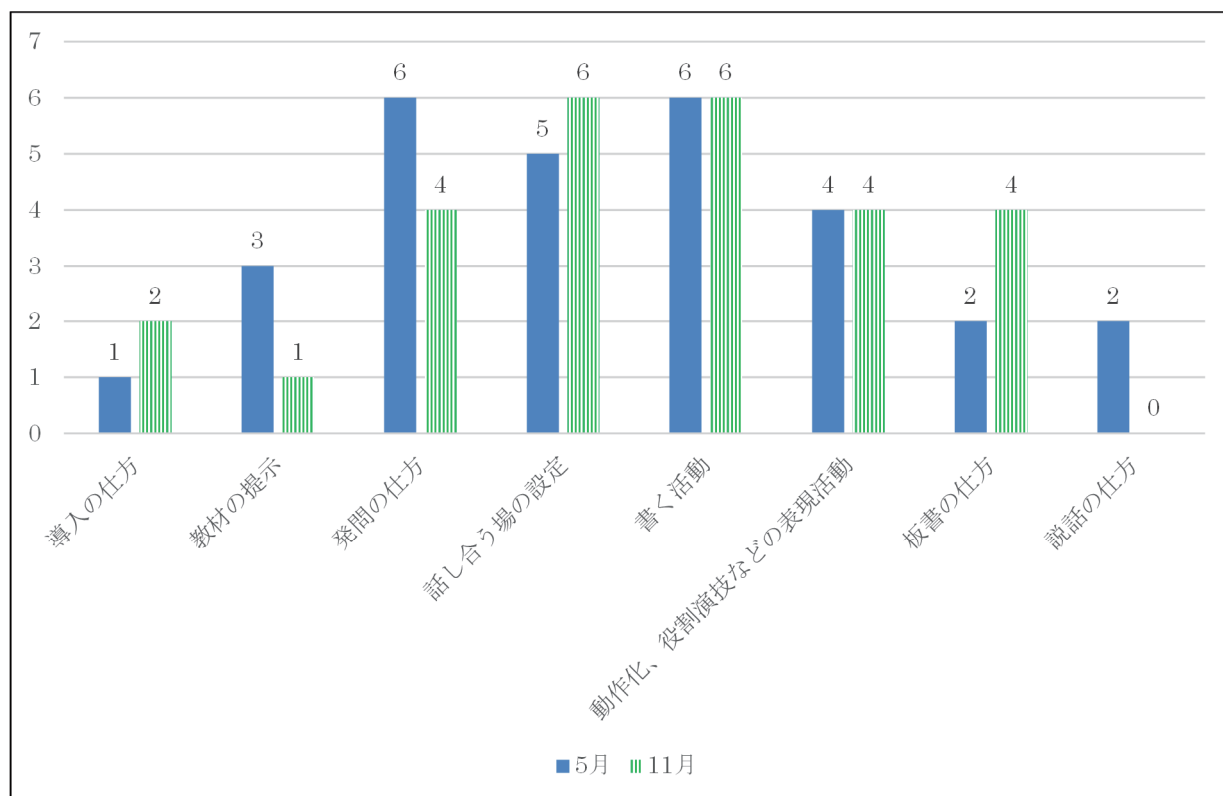


図20 指導方法に係る困難（詳細）比較

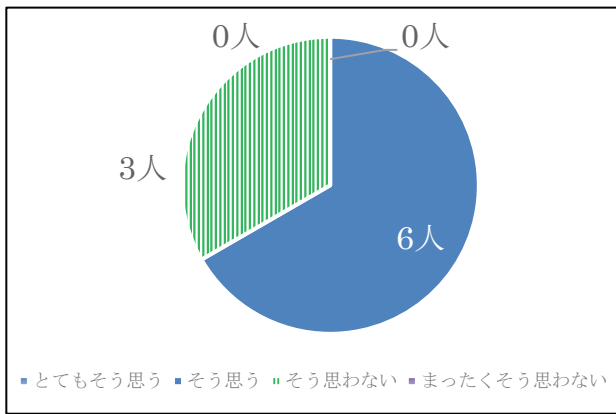


図 21 「道徳授業づくりシート」の有効性

④「道徳授業づくりシート」のよさ

「11 『道徳授業づくりシート』を使用してよかった点を教えてください」との問いに対し、次のような自由記述の回答があった。

【指導の意図に関する記述】

○教材

- ・考えを分析しやすかった。
- ・資料の理解に役だった。視点をはっきりさせて分析することができる。
- ・教材を分析するのに役立っている。
- ・教材を分析するのに役立っている。枠を記入することで考えなければならないことを意識できる。
- ・教材分析がわかりやすい。

○指導過程

- ・授業についてイメージがもてた。道徳的価値、ねらい、中心発問、問い返しの発問等、自分なりに考えるためのシートになっていた。
- ・左半分は構想や教材分析に役立った。
- ・授業の構想が明確になる。作成する過程で、ねらいや目指す子供の姿が自分の中で明確になった。
- ・授業構想に役だった。具体的な場面を想定して授業の道筋や発問を考えることができる。

【発問に関する記述】

- ・右半分は、中心発問の場面での問い返しを

いろいろ考えることができた。ただ、その通りに行かないこともよくあった。

- ・発問や問い返しの言葉が整理できる。

【ねらいに関する記述】

- ・ねらいが明確になった。

⑤「道徳授業づくりシート」の改善点

「12 『道徳授業づくりシート』をさらに使いやすくするためには、どのように改善すればよいですか」との問いに対し、次のような自由記述の回答があった。

【簡素化に関する記述】

- ・時間がかかりすぎ、毎回シートを書くことが難しい。書く項目を削減するといいい。

【項目の追加案】

- ・授業の流れを考えることができるとよいと思いましたが、今のシートにこれを追加すると作成時の負担感は増すように思います。
- ・今のシートだけではやはり授業ができないので、授業の流れを書いたいつもの指導案が必要になる。終末の自分に返る部分についても少し書けるとよいと思う。
- ・児童に提示するテーマ（学習課題）を記入する欄があるといい。学習の流れをつくる重要な項目だから。
- ・終末の場面の発問まで書けるようにする。実践意欲へつなげる大事な場面なので。

【その他】

- ・作ったシートを保存し、全職員で共有したい。毎回ゼロから作るよりも効率がよく、その分教材づくり等に時間を使える。
- ・シート＝授業展開とならないが、よりどころとして使っていきたい。
- ・氷山の三層モデルの①～③。この形式にあたらない教材もあり、むしろそういった教材の方が授業構想が難しいので、そこで活用できるシートになるといい。

(2) 松江市立生馬小学校の実践から見えてきた「考え、議論する道徳」の授業

「考え、議論する道徳」に欠かせない二つの点について、授業者の指導過程及び子どもの学びを参観者がどのように捉えているかを次の二つの視点から整理した。

【①自分自身のこととして、多面的・多角的に考えることに関する捉え】

- ・多面的、多角的な意見を出すには、別の場面の主人公の気持ちを聞く方がよい。
- ・子どもたちの態度や意欲に対して適切な声かけがあり、児童が授業に向かうような支援がされていた。
- ・導入と補助発問のつながりが見えにくかったので、登場人物の気持ちについてこれない子どもがいたのではないか。
- ・「言わなかったらどうだったかな。」と反対行動の問い返しをすることで、言ったら気持ちがよいという流れになったのではないか。
- ・問い返しについては、「あやまるとなぜよいか」を問いかけ、「そうすると許してもらえるから」ではなくて、「そうするとすがすがしいから」という気持ちを共感させることが大切なのではないか。

【②自己の生き方について考えを深めることに関する捉え】

- ・自分もこうしたいというあこがれをもったり、こういうふうに言ったらよいのではないかと考えたりすることが大切だと思う。
- ・ふりかえりの場面では、友達の考えを聞いて、考えが変わったところや大切だと思うことを発表するとよいと思う。

(3) 考察

①「道徳授業づくりシート」の有用性

アンケート調査「道徳授業づくりシートを使用してよかった点」への回答からは、教材分析、授業構想に役立ったという回答が多かった。

事前の授業づくり検討会では、授業者が「道

徳授業づくりシート」を活用して教材分析していたため、明確なねらいを前提として協議することができた。また、松江市立生馬小学校では授業者の思考ツールとしてだけでなく、授業者の考えを共有するツールとしても「道徳授業づくりシート」を活用していた。そのため、授業者の思いを検討会の参加者がすぐに共有して協議することができた。事前検討会や授業後の研究協議において、中心発問や問い返しについてねらいに迫るものになってきたか、そのための支援は適切だったか等の点から、様々な意見が出された。「道徳授業づくりシート」で授業構想の過程が可視化されていたことの効果は大きかったと考えられる。一方、思考ツールとしてだけでなく、共有するツールとしたために、授業者が他者に理解しやすいように配慮して「道徳授業づくりシート」を書くようになり、負担が大きくなったという面もあった。

②「道徳授業づくりシート」と「考え、議論する道徳」の授業

前述したように、事前検討会及び研究協議においては、中心発問や問い返しは児童が自分自身のこととして多面的、多角的に考えるため、または自己の生き方について考えを深めるために有効だったかという視点から活発な協議が行われた。これは、「道徳授業づくりシート」を活用して授業構想及び事前検討会を行った一定の成果だと考える。しかし、質問紙にもあるように、「道徳授業づくりシート」は中心発問と問い返しをつくるまでのシートであり、授業構想の全体をサポートするものではない。そのため、授業づくりにおける課題意識は、導入、終末場面の構想や、板書計画、テーマをどのように設定したらよいかなどにさらに広がっていった。授業構想や指導方法について感じている困難に5月と11月で差があったのはこのためだと考えられる。「道徳授業づくりシート」を使いやすいものにアレンジしながら、そのと

きの課題意識に応じて授業改善を図っていく必要があると考える。

2 松江市立第一中学校の実践における結果と考察

(1) 質問紙調査の結果

調査対象者は、年間の授業を6時間以上行っている担任とした。1回目は25人、2回目は26人を分析の対象者とした。

① 授業の構想について

「1 道徳科の授業構想について困難を感じていますか」の問いに対し、1回目は22人、2回目は21人が困難を感じていると答えた(図22、23)。

さらに、困難の具体的な内容を見てみると、1回目も2回目も「中心発問設定」に困難を感じていると答えた人は、全体のほぼ半数又は半数以上であった(図24)。

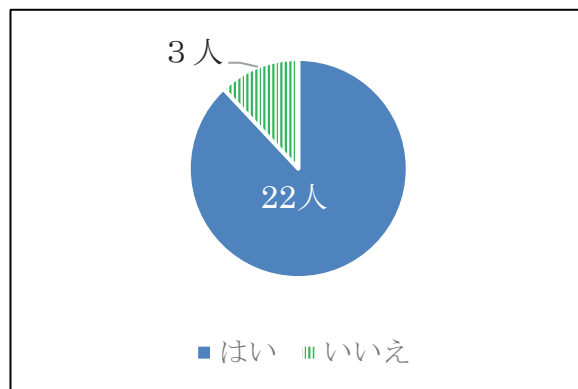


図22 構想に係る困難(1回目)

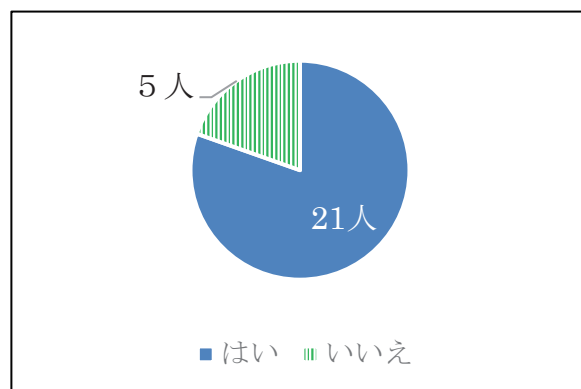


図23 構想に係る困難(2回目)

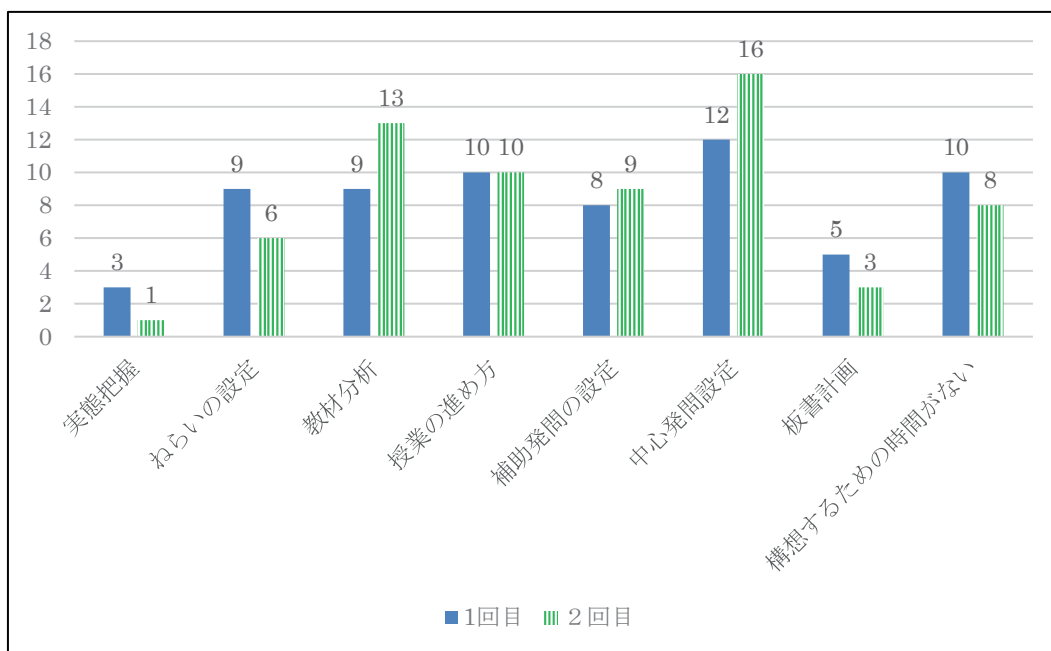


図24 構想に係る困難(詳細)比較

② 指導方法について

「7 道徳科の指導方法について困難を感じていますか」の問いに対し、1回目、2回目ともに21人が困難を感じていると答えた(図25、26)。

さらに、具体的な内容を見てみると、1回目と2回目で半数以上の人々が「発問の仕方」と「話し合う場の設定」を回答した。また、「動作化、役割演技など表現活動の仕方」については、1回目と2回目を比べると、困難を感じている人が6人減少した(図27)。

③「道徳授業づくりシート」と授業構想との関連

「9 『道徳授業づくりシート』を使用することで、道徳の授業構想がしやすくなりましたか」の問いに対し、肯定的な回答が18人、否定的な回答が8人だった(図28)。

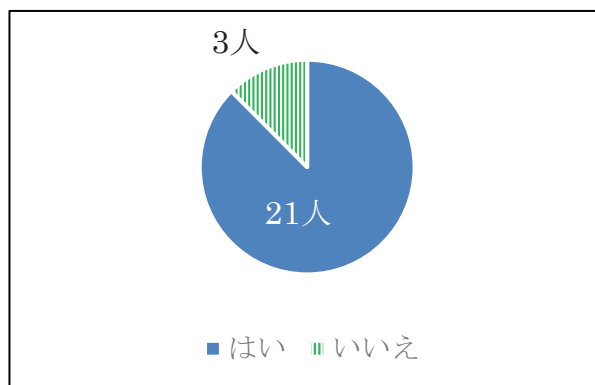


図25 指導方法に係る困難(1回目)

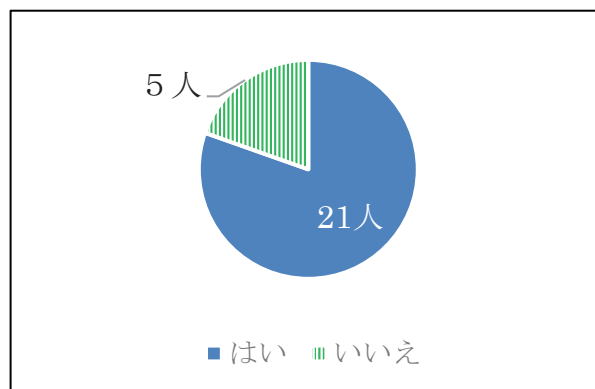


図26 指導方法に係る困難(2回目)

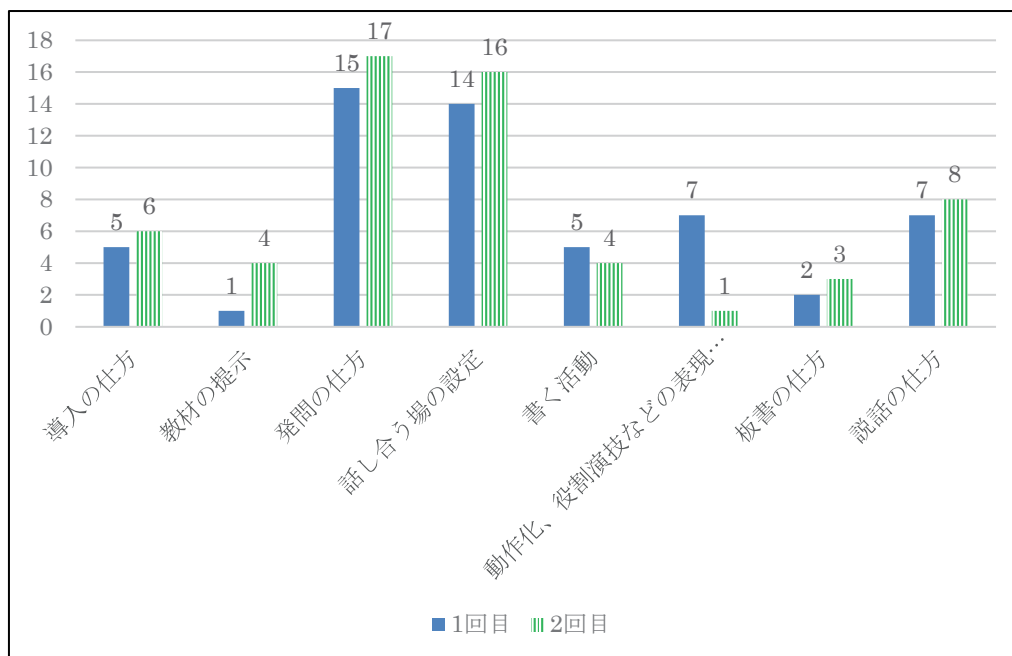


図27 指導方法に係る困難(詳細)比較

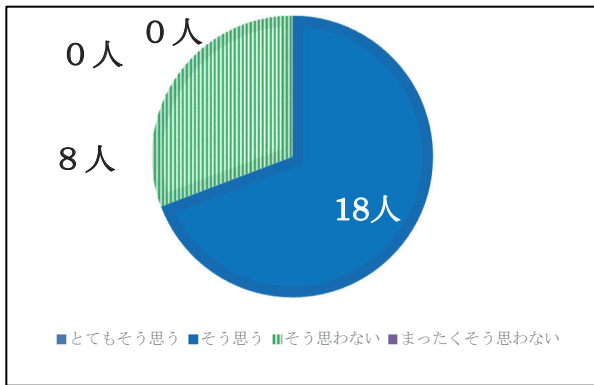


図 28 「道徳授業づくりシート」の有用性

③ 「道徳授業づくりシート」のよさ

「11 『道徳授業づくりシート』を使用してよかった点を教えてください」の問いに対し、次のような自由記述の回答があった。

【指導の意図に関する記述】

○学習指導要領

- ・考えさせることがはっきりしてくる。
- ・道徳価値がわかりやすくなった。

○生徒の実態

- ・書いてきた物が形として残るので、生徒自身も変容に気づくことができる。

○教材

- ・教材に向き合うときの視点の明確化。
- ・教材や授業構想を整理できる。
- ・じっくりと教材に向き合うことができる。
- ・教材分析がしやすく授業の展開をイメージしやすい。

○指導過程

- ・授業の流れを考えることができる。
- ・自分の頭の中が整理され、授業づくりのヒントになる。
- ・自分の考えが整理される。
- ・教材のねらいや発問を整理できる。

【発問に関する記述】

- ・発問を考えやすくなった。
- ・発問がわかりやすく述べてあるので使いやすい。

【ねらいに関する記述】

- ・ねらいを書くところ。

- ・ねらいが明確になる。
- ・ねらい、中心発問の明確化。

【その他】

- ・授業を行った証拠になる。

⑤ 「道徳授業づくりシート」の改善点

「12 『道徳授業づくりシート』をさらに使いやすくするためには、どのように改善をすればよいですか」の問いに対し、次のような自由記述の回答があった。

【簡素化に関する記述】

- ・項目を減らして簡略化。
- ・よりシンプルになるとうれしい。
- ・もう少しシンプルに。

【その他】

- ・教材の内容によってはシートがあてはまらないときがある。
- ・毎年作ったらファイリングし、次年度に活かすとよい。
- ・改善点は特にないが、日々の仕事で時間がとれない。

(2) 松江市立第一中学校の実践から見てきた「考え、議論する道徳」の授業

研究協議における授業者及び参加者の発言を、道徳の学習に欠かせない二つの点から次のように整理した。なお、二つの点とは①自己を見つめ、多面的・多角的に考えることに関する捉え②人間としての生き方について考えを深めることに関する捉えである。

【①自己を見つめ、多面的・多角的に考えることに関する捉え】

- ・板書がきれいで、わかりやすかった。
- ・いつも以上に活発な発言が見られた。
- ・グループで意見交換する場があることで、個の意見が広がっていた。
- ・「道徳授業づくりシート」で予想される生徒の反応を考えていたので、生徒の発言にうまく対応できた。

- ・生徒の意見をひろいながら、問い返しの発問をしていた。
- ・生徒の考えを付箋紙を使って共有してはどうか。
- ・生徒が「思いやり」について最後に考えまとめたことを、時間をしっかりとって発表させ共有させたかった。

【②人間としての生き方について考えを深めることに関する捉え】

- ・一生懸命考えたことと考えを深めることは別だと思う。その点を学んでいきたい。
- ・考え、議論するところまでは授業が深まらなかった。
- ・授業でつかませたいねらいを教師が語ってしまい、深めることができなかった。

(3) 考察

①「道徳授業づくりシート」の有用性

有用性について次の二つの点が見えてきた。

一つ目は、「指導の意図の明確化」についてである。質問紙調査「道徳授業づくりシートを使用してよかった点」の回答 17 件のうち、学習指導要領、生徒の実態把握、教材分析、指導過程などの教師の指導の意図に関する記述が 11 件であった。その中でも、「整理」「はっきり」という明確化を表す言葉が、7 件の記述に含まれており、「道徳授業づくりシート」が、教師の指導の意図を明確にする上で役立っていることがうかがえる。

二つ目は、「共有ツールとしての役割」についてである。研究協力校の 1、2 年生の授業者は、教材研究をする際に、「道徳授業づくりシート」を活用して思考を整理していった。できあがったシートは、授業者の思考の過程と結果が構造的に示されており、指導案審議が構想の根拠に至ることがあった。この

ことによって教師間においてより深まりのある指導案審議が行われた。また、2 年生の実践では、「道徳授業づくりシート」を基に、指導方法を教師間で共有し、同じ授業者が他学級で授業を行ったり、他の教員が同じ教材で同じねらいをもって授業を行ったりすることができ、共有するためのツールとしても役立っていることがわかった。

②「道徳授業づくりシート」と「考え、議論する道徳」の授業

「考え、議論する道徳」の実現には、次の二つが必要であると考ええる。一つ目は、明確な指導の意図であり、二つ目は、ねらいに迫る発問と考える。一つ目については、VI-2-(3)-①で述べたとおりである。ここでは、二つ目について述べていく。

ねらいに迫る発問は、授業構想の段階で、生徒の反応と問い返しを考える必要がある。研究授業においては、授業構想の際に教師が予想した生徒の発言がたくさんあった。また、その発言に対する問い返しは構想の段階で考えられていたものであった。その中で生徒は、自己を見つめ直したり、友だちの考えと比べたりして、自分の考えをより明確にしていった。これは、「道徳授業づくりシート」を活用して中心発問を考えた一定の成果だと考える。

しかしながら、「人間の生き方について考えを深める」ための発問や手立てが、そう簡単ではないことは、質問紙調査の数値結果や授業協議の参加者コメントからもうかがえる。生徒の「人間の生き方について考えを深める」ためには、教師が指導の意図を明確にすることが欠かせない。だからこそ、「道徳授業づくりシート」を活用しながら、授業改善を図っていく必要があると考える。

(2) 「道徳授業づくりシート」の使い方

「道徳授業づくりシート」の使い方を図30のようなリーフレットに示した。使い方は、次の①から⑥の通りである。なお、①から⑥の順番はおおよその順番である。

- ①「道徳的価値にかかわる指導の明確な意図」をもつために、ねらいや指導内容を学習指導要領に基づき、教師の捉え方を明確にする。
- ②「児童生徒の実態にかかわる指導の明確な意図」をもつために、ねらいや指導内容に関連する児童や生徒のこれまでの学習状況と教師の願いを明確にする。
- ③「教材の活用にかかわる指導の明確な意図」をもつために使用する教材の特質やそれを生かす具体的な活用方法(道徳的価値の自覚を深めていくための手掛かり)を明確にする。

まず、教材に書いてある内容を分析する。道徳的に変容した登場人物(A)は誰か、(A)が変容するきっかけになった出来事は何か、(A)が変容を遂げてどうなったかを整理する。次に、読解レベル(教材に書かれていること)の分析を行う。ここでは、登場人物が感じたことや考えたことを整理する。そして、道徳的価値レベルの分析を行う。さらに、教材には書かれていないが教材

について「考え、議論する」学習を通して児童生徒が気付くことができるであろう「道徳的価値についての考え方や生き方、信念」を明確にする。

- ④「本時のねらい」を設定する。「指導の明確な意図」をもつことによって見えてきた「道徳的価値レベル」と「児童生徒の実態」をもとに設定する。
- ⑤「中心発問」を設定する。「中心発問」は児童生徒が「考え、議論する」ための中心的な場面になる。中心発問に対する「予想される児童や生徒の反応」やさらに考えを深めるための「問い返しの発問」を準備することによって、発問する教材の場面や発問の文言を検討する。
- ⑥「問い返しの発問」を準備する。児童や生徒の一面的な見方から多面的・多角的な見方につなげる問い返しの発問例を参考にしながら、どのように問い返せば本時のねらいに迫ることができるかを検討する。

このように「道徳授業づくりシート」に記入していくことで道徳の授業構想を行うことができる。ただし、構想できるのは中心発問であり、道徳科の1時間すべての授業構想を行うことは難しい。シートの作成後に、中心発問を中心とした授業づくりを行う必要がある。

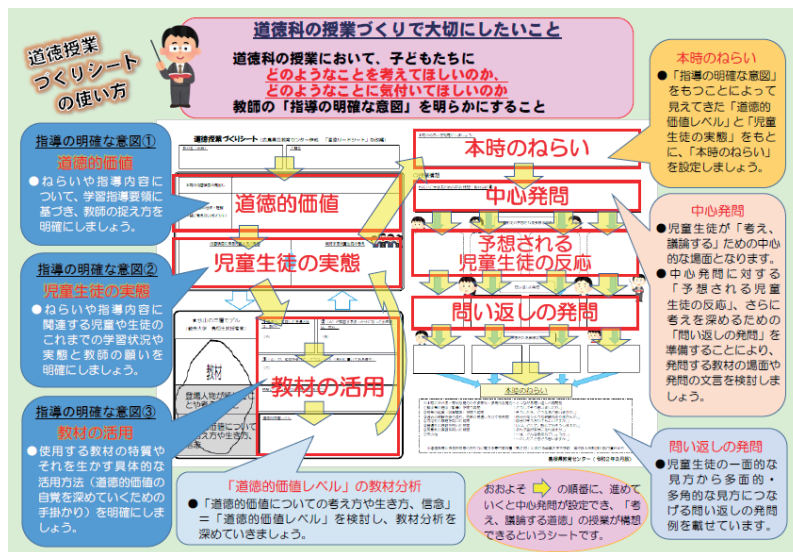


図30 「道徳授業づくりシート」の使い方を示したリーフレット

(3) 「道徳授業づくりシート」の有用性

本研究から「道徳授業づくりシート」の活用について、次の三つの有用性が見えてきた。

- ① 指導の明確な意図(内容項目の理解、子どもの実態把握、教材の効果的な活用)を思考するためのツールとなり、「本時のねらい」を明確にすることができる。
- ② 指導案を検討する際に、授業者の指導の明確な意図に係る思考プロセスを参加した教職員全員で共有することができる。
- ③ 複数の学級において同じ教材で授業をする際に、作成した「道徳授業づくりシート」を他学級の授業者と共有することで、指導方法について確認し合うことができる。

①については、「道徳授業づくりシート」を指導の明確な意図を思考するためのツールとして活用することで、授業者は道徳的価値の理解を深めることができる。このことによって、「授業のねらい」が明確になり、軸がぶれない道徳科の授業を構想することができるようになる。道徳的価値の理解に基づいた道徳科の授業こそ、質的な転換を図った道徳科の授業であると考えられる。

②については、指導案を検討する際に、作成した「道徳授業づくりシート」を共有することで、授業者の思考プロセスを参加者全員で共有できるようになる。これは、授業者が思考した「ねらい」や「中心発問」の設定理由が「道徳授業づくりシート」によって可視化されるためである。このように、授業者が指導案を作成した根拠を共有できるため、「ねらい」や「中心発問」の設定に向けて協議を深めることができるようになる。このような協議を行うことが、質的な転換を図った道徳科の授業実践

につながっていくと考える。

また、このことはOJTの視点から「道徳授業づくりシート」を校内研修において活用することができる可能性を示唆している。道徳科の授業構想に困難さを感じている教師にとっては、校内研修における協議を行うことによって、どのような過程をたどれば道徳科の授業を構想できるかを体験的に理解することが可能になる。

③は、松江市立第一中学校の実践において見えてきたことである。今回、授業実践をする授業者が「道徳授業づくりシート」を作成し、同じ教材で授業をする他学級の授業者と共有していた。他学級で授業をする授業者は「道徳授業づくりシート」に書かれた内容に基づいて授業を行っていた。②と重複するところではあるが、学習指導案(授業展開)では見えない作成者の思考プロセスが可視化されることによって、単なる指導方法の共有ではなく、その意図を踏まえた指導方法の共有が可能になる。また、指導の明確な意図を踏まえることで、学級の実態に即した授業構想の練り直しが容易になる。さらに、実践を繰り返す中で、より質的な転換を図った道徳科の授業実践を行うことができるようになる。

2 研究から見えてきた課題

(1) 「道徳授業づくりシート」の課題

本研究を通して、新たな課題が見えてきた。筆者らは、道徳科の授業に係る困難さを軽減させることができるツールとして「道徳授業づくりシート」の提案を目指してきた。その有用性についてはVII-1-(3)で示したが、一方で「道徳授業づくりシート」が誰に対しても使いやすく、そして短時間で道徳科の授業構想が行えるものになったかについては課題が残る。

さらに、実践的な研究を通して「道徳授業づくりシート」の活用に関する限界が見えてきた。それは、次の2点である。

- ① 「道徳授業づくりシート」を用いた分析が難しい教材がある。
- ② 「道徳授業づくりシート」だけでは道徳科の授業展開を考えることが困難である。

①については、道徳科の教科書に掲載されている教材の内容が多岐にわたることがその原因と考える。絵から状況を読み取って考えるような教材や「どうしたらよいか」という課題を提示してその課題について考えるような教材が見られた。このような教材は、登場人物の葛藤が描かれていなかったり、登場人物の変容が読み取れないものだったりした。このような点から「道徳授業づくりシート」を通して教材の分析を行うことが困難な教材があると考えられる。

②については、「道徳授業づくりシート」において授業展開を記入する欄を設けることは可能である。しかし、そうすることで授業者の授業を構想するために必要な労力が増大する。上述したように、「道徳授業づくりシート」は誰に対しても使いやすく、そして短時間で道徳科の授業構想が行えるものになりたいと考えている。そのため、作成した「道徳授業づくりシート」は、「本時のねらい」と「中心発問」を設定することに焦点をあてている。

(2) 「道徳授業づくりシート」の活用に向けた提案

VII-2-(1) に示したように、「道徳授業づくりシート」の活用に関して、限界がある。筆者らの提案する「道徳授業づくりシート」は、あくまでも授業構想の基盤（標準的なシート）であると捉えている。そこで、次の2つを視点にしながら、使用者の実態に応じて「道徳授業づくりシート」を加筆、削除及び修正をしてもらうことを提案する。

- ① 「導入」→「展開」→「終末」という授業展開を考えることができるシート

を付加する。

- ② 記入する項目が少なくなるように、使用者によってシートの不要な部分を削除したり、簡易化したりする。

なお、「道徳授業づくりシート」及び「リーフレット」は、島根県教育センターのホームページに掲載している。使用者の状況に応じて活用方法を検討していただきたい。

本研究が、今後の道徳科の実践において「考え、議論する道徳」への質的な転換を図るの一助となることを願っている。

【謝辞】

本研究を進めるにあたりご協力いただいた松江市立生馬小学校及び松江市立第一中学校の教職員の皆様をはじめ関係者の皆様に心より感謝いたします。

研究同人

島根県教育センター企画・研修スタッフ
安達利幸、伊藤由実子、岩地千晶、梶谷敏樹、
加藤淳也、小西久美子、後藤真一、須田香織、
園山裕之、野津忠宏、深田剛生、山崎敦史

引用文献

- 1) 中央教育審議会 (2016) 「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について (答申)」。
- 2) 島根県教育センター・島根県教育センター 浜田教育センター (2019) 『平成30年度 研究紀要』, p. 8.

参考文献

- 3) 独立法人 教職員支援機構、山口県教育委員会 (2019) 『令和元年度道徳教育指導者養成研修 (ブロック別指導者研修) 【中国・四国ブロック】 研修のしおり』。